

- ・分科会からの提言
 - ・発表者：室崎千重（分科会アドバイザー、奈良女子大学准教授）
平瀬肇万（分科会参加者、十津川村武蔵在住）
-

室崎：

私は2014年から谷瀬集落に学生とともに通って来ました。11月4日（木）、5日（金）で、村民と村外の方々が、「多様な暮らし」「観光を多彩に」というテーマで話し合いました。小さな子ども達も参加し、真剣でかつ和やかな会議となりました。皆さんから出た意見を、ここに6つの項目に凝縮しました。

分科会では私が十津川村に通うなかで魅力的だなと感じてきたことの原因が、明確化されるようなきらめきのある言葉がたくさん出てきました。



平瀬：



武蔵で体験型宿泊施設をやっています。私は伝統を大切にしたいと思っています。この村は「盆踊り」が盛んで、地元の8割の人は踊れます。ただし譜面はない。歌は同じものがありますが、踊りは字ごとに違います。それがすごいことだと思います。源泉かけ流しの温泉文化も貴重。村民には当たり前の、この多様な生活文化を大事にしていきたいです。

室崎：

同じく分科会参加者で、村内でデザイン会社を立ち上げた三浦貴和子さんは本日、発表予定でしたがご都合が悪くなりました。このようなご意見が届いています。

「この村は暮らしそのものが魅力的です。何があるというよりも、人との関係があたたかい。煮詰ってしまったときに、温泉にはいたり、森に行ったり。身近なところで自分の辛い気持ちを発散させることができます。これからの観光はこういうことだと思います」

皆さんこれから、この6つの提言を意識しながら暮らしていきましょう。

【提言6つ】 守りたいこと、これからのこと。

1、山での子育てを楽しもう

- ・子どもたちが大声で挨拶する。近所が「子ども、みといたるで～」と声をかけてくれる。そんな環境がいい。
- ・5歳の子が地下足袋で1000m級の山に登ったりできる。戻ってくると目が輝いている。親の考え方次第で山で遊べる。
- ・小さな集落に子どもたちがいると賑やか、イモ堀りも稲刈りも移動保育所みたい。「いもたばり」の行事もやっている。

2、人の繋がりを大事にしよう

- ・人口が少ないのに、都会より人と交流できる。都会では何でも一人でやらなくてはならないが、ここでは一緒に歩いていく。
- ・「あげる」文化がある。あげるために野菜を作る。もらえば自分もあげたくなる。急峻な土地で厳しいから、人がやさしい。
- ・自主自立の村。決めたら自分たちで実行する。なかったら、みんなで作ればいい。「ゆい」の文化を次世代にも伝えたい。

3、伝統と自然を大切に

- ・在来種の作物「ムコダマシ」という餅粟や「十津川高菜」を作っている。各地で少しずつ違う伝統の「ゆうべし」も美味。
- ・盆踊りの曲が沢山あり、字ごとに違う踊り。8割の人が踊れる。村民が張り切る手作り駅伝が66回も続いている。
- ・日本一広い村だから、日本一の自然がある。夜、空を見ると、全部星。蛍も、珍しい花も。そして世界遺産が2つも。

4、広いからいい、不便だからいい

- ・一日では回れない、だから立ち止まる観光を。滞在して、ご飯を炊いたり川で遊んだり、誰かに一日お任せする、そんな体験も。
- ・アクセスが悪い分、落ち着いてワーケーションをするのにいい村。仕事ができる環境がある。SNSなどをもっと活用し発信しよう。
- ・ここの暮らしそのものが素敵。サッと回れないから、何かを見るのではなく、ゆっくり暮らしの魅力をおすすめしてもらえ。

5、心と身体を健康をうたおう

- ・健康や身体づくりをテーマに。コロナ禍で屋外の遊びに注目が。「源泉かけ流し」の上質の温泉も村民は当たり前もっと発信を。
- ・自分の辛い気持ちを発散させるところが身近にある。温泉や山や。来訪者も疲れた心を癒し、和んだと言って帰る。
- ・哲学的に教えてもらえる。自分修行の旅ができる。裸の自分と付き合ってもらえる村。

6、力を借り、維持し、稼ごう

- ・都市部の方が汗を流して手伝ってくれ、それで癒されたと喜んで帰る。外の力で村を維持する仕組みがあれば。
- ・お土産や地域の新しい産物を作ろう。そして、関わった人たちがきちんと報酬を得られるようにしていこう。
- ・自然は無料で手に入れている都会の人に、維持する苦勞をきちんと伝える。この村にビジネスチャンスはいろいろある。

